

富山新港の未来を考えるシンポジウム

～未来につなぐ新湊大橋・港湾都市いみずの将来像～

日時 平成 26 年 3 月 16 日（日）14:00～

場所 アイザック小杉文化ホール ラポール ひびきホール

（司会） 皆さま、本日はお忙しい中、お集まりくださいまして誠にありがとうございます。ただ今より、新湊大橋開通 1 周年・あいの風プロムナード開通記念「富山新港の未来を考えるシンポジウム」を開催します。私は、本日司会を務める北日本放送の丸山育子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、シンポジウムの主催者である新湊大橋開通 1 周年・あいの風プロムナード開通記念イベント事業実行委員会会長、射水市長の夏野元志がごあいさつを申し上げます。

あいさつ

夏野 元志（射水市長）



3 月に入って、暖かい日もあれば、今日のように寒い日もあって、寒暖の差が大変激しい日が続いています。皆さんも体調を崩さないように、元気にこの冬を乗り切っていただきたいと思います。

本日は、「富山新港の未来を考えるシンポジウム」と題して開催させていただいたところ、多くの皆さんにご来場いただき、盛大に開催できることを大変うれしく感じています。お越しいただいた皆さま方にあらためて感謝、御礼申し上げる次第です。本当にありがとうございます。

さて、富山新港は昭和 43 年 4 月 21 日に開港し、去年の 4 月に開港 45 周年を迎えました。この間、地域の物流の拠点として、また、環日本海の交流拠点として、大変大きな役割を

果たしてきています。一昨年（2012年）の9月23日には、新湊大橋の車道部分が開通しました。この富山新港を中心にして、隣の伏木港と富山港の三つの港が連携しながら、これからはまさに日本海側の拠点港湾として、日本経済をしっかり支える港として、さらに発展、活躍することが期待されています。

去年（2013年）の6月には、新湊大橋の歩行者用通路「あいの風プロムナード」が開通しました。海上47mから周りの景色を見渡すことができ、天気良ければ能登半島の方もきれいに見えます。高いところの空中散歩の気分も味わえ、新たな観光スポットとしても注目を集めているところです。射水のベイエリアは今、経済的にも観光スポット的にも、大変大きな注目を集めています。

とりわけ雄大にそびえ立つ立山連峰をバックに堂々とたたずむ新湊大橋、海の貴婦人「帆船海王丸」がそろうた景観が大変素晴らしいということで、高い評価を受けています。そうした中で、海王丸パークが「恋人の聖地」に選定されました。本日、基調講演を頂くファッションデザイナーの桂由美さんは、「恋人の聖地」の選定を主催しているNPO法人、地域活性化支援センターの理事もしておられ、海王丸を「恋人の聖地」に選定いただいた選定委員でもあります。このようなご縁があって、桂由美さんのお話を聞けることを大変うれしく感じております。グローバルな舞台で活躍されながら、ブライダル界をしっかりとリードしている桂さんのいろいろなお話を聞きながら、今後、港を中心にして、地域の活性化へ向けていろいろなアイデアを得ていきたいと思っております。

今日のシンポジウムは2部構成になっています。第1部は桂先生のご講演、第2部がパネルディスカッションです。パネルディスカッションには、桂さんはもちろん、各界で活躍される先生方、富山県出身で女優の柴田理恵さんにも参加いただきます。富山県の魅力を全国に発信してくださっている方ですので、そういった視点から、ぜひ射水の魅力、ベイエリアの魅力についてご意見を聞かせていただければありがたいと思います。

このように、今日は盛りだくさんの内容で開催いたします。港の未来、より一層の活性化を皆さんと一緒に考えることができる楽しいひととき、良い機会にしたいと考えておりますので、最後までお付き合いいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、このシンポジウムの開催に当たって、いろいろな方から協賛やご協力を賜りました。この場をお借りして、ご理解とご協力を頂いた皆さまに心から感謝、御礼を申し上げます。そして、今日1日が有意義な日になるように心からお祈りし、開会に当たってのごあいさつといたします。本日はよろしくお祈りいたします。

第1部 基調講演

（司会） ありがとうございます。続いて、第1部の基調講演に移らせていただきます。

まず、本日も講演いただく桂由美様のプロフィールを簡単に紹介いたします。桂由美様は、共立女子大学卒業後、フランスへ留学。1964年、日本初のブライダルファッションデザイナーとしてデビューされ、翌年には日本初のブライダルコレクションを開催されました。1999年、東洋人として初めて、イタリアファッション協会オートクチュール部門正会員となられ、2003年、パリオートクチュールコレクションに参加されて以降、毎年参加されるなど、ブライダルファッション業界を牽引する世界的なデザイナーとして活躍中です。現在では、全日本ブライダル協会会長、アジアブライダル協会連合会会長、NPO法人全日

本ブライダル協会理事長、NPO 法人地域活性化支援センター理事を歴任していらっしゃいます。

また、著書には、『世界基準の女になる』『出会いとチャンスの軌跡』他、数多く出版されており、多方面でご活躍なさっています。日本だけでなく、海外でも、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ローマ、モスクワなど、世界 22 カ国以上、各国首都でショーを開催されており、ブライダルの伝道師とも呼ばれています。

射水市とのご縁は、昨年 2 月、NPO 法人地域活性化支援センターが選定する「恋人の聖地」として海王丸パークが選定されたことからです。選考委員会の委員長でいらっしゃいますのが桂由美様です。本日は、海王丸パークが「恋人の聖地」として、一層カップルたちに愛され、親しまれる地になるよう、桂由美さんの活動、経験に基づいたお話からヒントを考えていきたいと思えます。

私事ですが、仕事で桂由美さんの新作のウェディングドレスを先日、着させていただきましたが、とても重厚感があってゴージャスなドレスでした。今日は、皆さまと共に、基調講演を本当に楽しみにしております。それでは皆さま、大きな拍手でお迎えください。桂由美さんです。よろしくお願いいたします。

「少子化対策と観光事業の融合」

桂 由美 氏（ブライダルファッションデザイナー／NPO 法人地域活性化支援センター理事）

はじめに



私は 50 年という長い間、日本のブライダルファッションを世界基準にするために頑張ってきました。私がこの仕事を始めた 1964 年は、97%が着物で神前結婚式を挙げている時代でした。そして、ウェディングという英語はありましたが、ブライダルという英語は誰も

使っていませんでした。みんな着物で結婚式をやっているの、ウェディングドレスは必要ないし、それに関わるネーミングも必要なかった時代なのです。

では、なぜ私が1964年に共立を出てからこの業界に入ったかという、私の母は洋裁学校をやっていて、卒業制作で生徒にウェディングドレスを縫わせようとしていました。私はそのころ母の手伝いで洋裁学校の先生をしていました。生徒が高い費用を出してウェディングドレスを制作するのだから、できるだけ生地を安く分けてもらえるように、生地屋の社長に頼みに行きました。そして、ウェディングドレスが出来上がると、下着や手袋、アクセサリーやウェディングシューズが要るので、それを探しに街中へ出たのですが、本当にびっくりしました。何も無いのです。

当時、森英恵さんや中村昇さんといった国際的に活躍するデザイナーも登場していて、銀座にはきれいな店が並んでいました。日本のファッションは決してレベルの低いものではなかったのですが、婚礼となると文金高島田の黒の振り袖が主流で、今のような打掛はありませんでした。神社で結婚式を挙げて、料理屋でお披露目をするという形だったので、必要がなかったのです。それから、どこかがブライダルをやろうと思っても、シェアが3%では成り立たないのです。ですから、誰も手を着けようとする人はいませんでした。洋裁学校で手伝いをしているときには、ブライダルの下着もなければ靴もなく、手袋もない。何もありませんでした。花屋もブーケを作ったことがないから、自分で花を買って作らなければならず、フラワーデザイナーという存在もありませんでした。

しかし、外国人と結婚する人、外国生活の非常に長かった人、クリスチャンの人たちなど、3%はウェディングドレスを着ていました。今では考えられませんが、専門店もなければ、私たちのようなデザイナーもいなかったの、デパートにオーダー部はありましたが、本物が何も無いので、着てみて決めるわけにいかないのです。デザイン画か、外国のモデルが着ている写真を見て「これ」と言うと、それと同じように作ってくれますが、50年前の日本人は背が12cmくらい低かったの、外国のモデルのプロポーションとは全く違うものができましたが泣くに泣けず、喜劇のような悲劇が起きていました。私はその人たちを助けるつもりでこの道に入りました。やがて和洋がちょうど同じ比率に逆転して、ウェディングドレスを着ない人は2~3%しかいません。

私はそういう時代が来るのを見越して企業を始めた女性企業家の代表のように言われていて、取材や講演などを頼まれることがあるのですが、それは絶対に受けません。たった3%だけでも、その人たちを気の毒で見えなかったから手を差し伸べたのです。社会事業をするようなつもりで、利益が上がるとか、将来こんなに大きな産業になるということはまるっきり考えずに始めました。当時から思ってきたことは和洋の両立です。私は和装を否定したことはありません。日本の着物は世界で一番美しい民族服だと今でも思っていて、今は和装(着物)のデザインもしています。いつも白いウェディングドレスときれいな振り袖、さもなければ白無垢の文金高島田、あるいは綿帽子の着物の結婚式と披露宴の色の付いたドレスというように、とにかく和洋のどちらかを式か披露宴にやった方がいいと言って50年ずっとやってきました。それは、日本のウェディングを世界に誇れるものにしたい、日本の結婚式はきれいだとみんなが言ってくれるようにしたいと思ったからであり、着物がある以上はそれができると思ったからです。

今でも外国の人がホテルに泊まったりすると、結婚式でお嫁さんが走って行ったりするのを見て、「日本の人たちはすごいを着ているね」と言います。あんなにトレーンを

長くするのは、ヨーロッパでは卒業してしまっていて、今はもっとカジュアルになっています。しかも日本はレンタルです。ウェディングドレスを買っている人は4分の1ぐらいしかいません。4分の3は貸衣装で、150~200万円ぐらいのドレスを30~40万円ぐらいで着るのです。欧米ではみんなもっと安いドレスを買うのでそれが分からず、あれをオーダーして作ったからには、日本人はさぞかしお金持ちなのだろうと思っているのです。

オリジナルウェディングの時代

欧米と日本との違いはいろいろありますが、50年間、私が叫び続けてきたことは、人の人生は百人百様、結婚に至るストーリーも百人百様であるはずなのに、なぜ結婚式だけワンパターンになるのかということです。それが、私がこの仕事を始めたときからの疑問です。みんなオリジナリティ、個性を出して、花の種類、料理、そこで行われる演出など、今日の結婚式はどのようなものなのだろうとワクワクするような百人百様の結婚式を行う「オリジナルウェディング」ということを当時から言ってきました。昔は祝辞で始まって祝辞で終わっていました。披露宴はスピーチしかないのです。仲人さんが20分ぐらい話して、両家に2人ずつの主賓がいて、そのあいさつが全部終わるまでに1時間かかる。その後も、お料理を食べながら延々とスピーチを聞く。たまに余興で踊りか歌が入るかぐらいで、それが無い場合もありました。

今、ようやくオリジナルウェディングの時代になって、テレビなどでご覧になるでしょうが、本当にワクワクするような結婚式や披露宴が多くなりました。しかし、人生とは皮肉なもので、その途端に起きたのが婚姻率の低下、非婚化です。皆さんの周囲にも、30歳になっても40歳になっても結婚していない人がいると思います。結婚年齢が遅くなった晩婚化が第一に始まり、今度は離婚が増えて、今、1年間の婚姻件数はかろうじて66万組です。私が仕事を始めたころは100万組ですから、少しずつ下がってきて、もう半分近くになっています。今は二十何万組の離婚があるので、再婚や三婚があります。それがあから、かろうじて66万組を保っていますが、初婚の人だけを見ると昔の半分になってしまっています。

ところが、結婚を否定するか、結婚をしたくないか、一生結婚しないかと聞くと、「はい」と答える人は男女とも4~5%なのです。ですから、みんなチャンスがあればというか、いい人が見つければ結婚したいと思っているのです。昔は仲人さんがいて、私なども縁談がたくさん来ました。こういう人は嫌だと言えば、違う人を持ってきてくれる仲人おぼさんがたくさんいたのですが、今はそれがなくなってしまうました。結婚式でも仲人さんが立つことは5%しかないと言われていました。各ホテルに聞いてみても、ほとんど仲人さんを立てません。仲人という存在はほとんどないに等しくなっているのです。

婚活・街コンの推進

それに比べて、ヨーロッパやアメリカではパーティがあって、いろいろな出会いの場があります。アメリカの若い人たちなどを見ていると、週末には必ず何かしらの集いがあるようです。日本はとても出会いの場が少ないのです。

一昨日、画期的な出来事がありました。第一議員会館に呼ばれたのですが、小池百合子さんが会長になって、婚活・街コン推進議員連盟が誕生したのです。いよいよ代議士たちが立ち上がって、自分たちの地元の選挙区で、行政ぐるみで婚活をやっていくということ

をそこで決議したわけです。これは私にしてみたら本当に遅くて、年々婚姻が減っている状況で、日本のウェディングが世界で一番素晴らしいものになって、世界中の人が「日本の結婚式はいいね。日本に来て結婚式をやりたい」と言うくらいになってくれればと思って努力してきました。少なくともブライダルファッションにおいては、世界でトップとは言いませんが、世界に伍してやれる自信があります。ミラノ、ローマの他、今はニューヨークでも、パリにも店を開いて、東京をそれらに並ぶところまでは引き上げたと思っていますが、これから結婚式をしなくなるわけです。

一つは婚姻率の低下で、もう一つはジミ婚です。先ほどもお話が出て、関係の方でまだ結婚式を挙げていない方もいました。芸能界でもきちんと挙げる人が本当に少なくなりました。届け出だけというのがニュースになりますが、上戸彩さんにばったり出会ったので、「結婚式だけは挙げてくださいよ」と言ったら「はい」と言っていました。どうも挙げそうにないという感じです。これはと思う芸能人、こんな素晴らしい結婚と思うような人が式を挙げず、届け出だけを出して済んでしまうというような風潮は大問題だと思っています。

日本はどうしてこのようになってしまったのでしょうか。いろいろな原因があると思うのですが、私たちが子どものころは、花嫁はうちで支度をして出発していました。ですから、子どもたちが小さいころから花嫁さんを見て、早くお嫁に行きたい、早くああいうふうに装ってみたいという夢のような、シンデレラ志向のようなものがあったのです。私はこれが非常に大事だと思っています。頼まれてイオンモールのようなところでショーをすると、子どもたちが舞台にしがみつこうようにしてウェディングドレスを見ているのです。そのときに、あの子たちは街中で花嫁のウェディングドレス姿を見ることがないのだなと感じます。ですから、花嫁さんたちには、式場の中で60~80人にだけ見せるのではなく、なるべく外に出て見せてくださいと言っています。

「恋人の聖地」



それと同時に、恋人対策です。一番幸せなカップルが結婚式にまで至る間をできるだけサポートしてあげるようなところが全国につくれないだろうかと思いついたのが8年前です。「恋人の聖地」を全国の各都道府県に3~5カ所ぐらいずつ認定して行って、みんなで工夫して、どうすれば結婚が増えていくか、あるいは結婚の幸せムードを高めていけるかと考えたときに、全国で100カ所を目標に、8年前に立ち上がったのがNPO法人の地域活性化支援センターです。

このように、私は婚姻のことですごく忙しく、全日本ブライダル協会の会長もしています。それから、假屋崎省吾さんはああいう立場の人なので、假屋崎さんに結婚のことを勧めるのはおかしいのではないかとされるのですが、すごく興味を持って手伝ってくれています。全国の県や府の観光課に呼び掛けて、地域で「恋人の聖地」にふさわしいところを推薦するのです。ただ単に、景色が良く、海辺だから「恋人の聖地」にしてくれと言うだけでは駄目です。「恋人の聖地」と書いた板が付けられて、それが風雨にさらされて、あとは何もしていないようなところはどんどん落としていきます。なにがしか恋人たちのために運動をしなければいけません。

一番成功しているのは、若い人を抱き込んで、民間に学と官が加わって産学官協働でやっているところ、あるいは産学で若い人のアイデアやデザインを出してもらって、2人で鳴らす鐘を作ってもらっているところです。例えば、海王丸の中には、2人が金の鍵を掛けてメモリーを残していく「愛鍵の部屋」をつくってあります。あるいは、北海道の大学の提案で、ピンクの発泡酒を作ったところ、それが爆発的に売れたというような例もあります。

それから、私のドキュメント映画ができて、5月15日に渋谷の映画館で1時間ぐらい放映されるそうです。その予告編ができたので、お目に掛けています。本来の私の仕事はこういうもので、今日お話し申し上げるような恋人対策、少子化対策は決して本来の仕事で

はないのですが、もし結婚人口が減って、皆さんが結婚式など挙げないようになったら、何のための人生だったのだということになるので、今日は皆さんにもその思いを訴えたくて出てきたわけです。

一昨年(2011年)の3月11日の東日本大震災の後、東北に結婚式ができなくなった人がたくさんいました。そこで、私が手を差し伸べられる範囲で、岩手や福島、仙台など、5カ所で45組を支援し、そのときに市長さんたちが、「桂さん、いいことをしてくれたね」と言ってくださいました。災害を受けて、今まで皆さんがお見舞いに来て、いろいろなことをしてくださったのだけれども、いつも自分たちは受け身だったと言いました。私はこれを「市民結婚式」と呼びましたが、市民参加型の結婚式です。私が結婚指輪を寄付して、地元のフランチャイズが衣装をただで貸してあげて式を挙げたときに、製菓学校の子がウェディングケーキを作って持って来てくれたり、お花に関係している人が花を周囲に飾ってくれたり、主催者と地元が一体となってイベントをつくり上げました。これが好評で、毎年やってくれと言われていたくらいです。

私は皆さんに市民参加型の結婚式を呼び掛けたいので、ふるさとウェディングコンクールというものを開いています。特に富山県のような一軒家が多いようなところでは、できるだけおうちから支度をして出発し、それを市民の方みんなで祝ってやってくださいと言っています。今、海外での結婚式が10%を占めていますが、海外で結婚式を挙げた人に何が一番良かったかと聞くと、縁もゆかりもない観光客や地元民の人たちが「おめでとう」とお祝いを言ってくれたり、車のクラクションを鳴らして「コングラッチュレーション」「ブラボー」と言ってくれたりしたことは一生忘れないと言います。海外に出なくても、そういうことを日本の中でしてあげるべきだと思います。

射水市であれば、結婚式は年間に1000もないのではないかと思います。1カ月に何十組かの結婚式だったとしたら、できるだけ市民の方が飛び出して行って「おめでとう」と言って、手を握ってあげていただきたいのです。そういうことで全然違ってくるし、できるだけカップルの幸福な姿を子どもたちに見せてあげてほしい。そうすれば、子どものウェディングや結婚に憧れる思いが強くなっていくだろうと思います。

北海道・帯広の幸福駅にある「恋人の聖地」は、昔は汽車が通っていたのですが、今は廃線になってしまって通っていません。ただ、「幸福」という駅の切符を買いたくて、全国からカップルが集まってきます。それから、瀬戸内海を見渡せるところに鐘やハートが付いていて、結婚式もできるようになっているところを「恋人の聖地」にしています。現在、丸7年たったので、全国で125カ所になりました。海王丸が去年の4月に120番目ぐらいに「恋人の聖地」になりました。そこに、プロポーズをしてもいいし、デートをして誓いの印である鍵を掛けていてもいいという「愛鍵の部屋」ができました。

ただ、一番大事なのは、海王丸の中にそれがあることだけでなく、このことに対する地元の人たちの熱意や理解です。それが一番ある地域は那須だと思います。那須には、那須ハイランドパークなど、恋人たちを対象にしたものやウェディングのできるような場所がたくさんあります。動物園も植物園もあって、いろいろなことをしています。それが総合的な効果を挙げていて、「恋人の聖地」になってから挙げた経済効果は5000万円ぐらいになるのではないかと思います。そういう意味では、富山県は今まで少し地味だった感じがしています。日本人は本当に海が好きで、海と船というのは希望の象徴なので、これを絶対に生かすべきだと思います。

成功しているところでは、若い人たちの意見やアイデアを受けて、それを企業が実践して、恋人たちのための食べ物や飲み物、記念品などを作って経済効果を挙げています。それが観光対策にもなります。125カ所もできた「恋人の聖地」を何カ所か回るスタンプラリーも始めています。その中で、今度の海王丸のような帆船があるところは一つもなく、ここだけですから、ここだけの特色を生かしていけば、海外からでも来るのではないかと考えています。観光立国日本ですから、若いカップルの幸福感が盛り上がっていくことが同時に観光対策にもなれば二重の効果だと思えます。ですから、ぜひ地元の方にも頑張っていたきたいと思っています。

「恋人の聖地」は世界にも広がっています。私と少し関係のあるフランスとイタリアですが、フランスにモンサンミッシェルという島とセントバレンタインという小さな村があります。そこの首長に「恋人の聖地」の話をする、「フランスではとっくの昔にやっているの、一緒に手を組んでやろうよ」と言ってくださいました。「恋人の聖地」という板がフランス語で書かれていて、そこに据え付けてあるのです。

例えばモンサンミッシェルは、巖島神社と世界遺産同士の姉妹提携を結んでいます。モンサンミッシェルは離れ島のようなところで、空に向かって教会が建っているような幻想的なところなので、そこで結婚式を挙げたいという人が随分いて、特に日本人に多かったそうです。しかし、あそこはカトリックなので、信者でなければ挙げられません。同時に、シビルウェディングという市町村がやっている婚姻届提出の儀式があり、日本人にそれをやりたいと随分言われたけれども、今まではモンサンミッシェルの市民しかできないと言ってきました。ところが、巖島神社自体ではないのですが、あの地域が「恋人の聖地」になっていることをモンサンミッシェルが知り、両方で交流を図ろうということで、日本人の結婚式を受け入れることになって、今、JTBやH.I.S.でモンサンミッシェルウェディングをやっています。そのような輪も広がっていています。

今のところ、海外では中国の海陽市、イタリアのルチアーノ、フランスのモンサンミッシェルとセントバレンタインの四つしかありません。アメリカもどこかないのかと話していて、これからできていくと思います。人口が増えて困るインドなどはあまり必要性を感じていませんが、男女、特に女性が高学歴化すると、必ず婚姻率減少という問題が起きます。そういうことを感じている国は、これからも「恋人の聖地」の運動に参加してくると思います。

今の「恋人の聖地」のパターンを考えてみると、一つは風光明媚で、山が後ろにそびえていて前には海があるなど、プロポーズしたい、デートをしたいと恋人たちが思うようなところ。それから、公園です。自然の木や花がたくさんあって、富山であればチューリップの公園があると思いますが、そういうところが名乗りを挙げるべきです。富山県にはクロスランドおやべというタワーがありますが、一番高いところで愛の告白をしたいというニーズもあります。特に東京のように山や海がないところでは、ビルの最上階、六本木ヒルズの最上階で、夕日の落ちるときにプロポーズをしたいという思いがあります。

森ビルの会長が先日亡くなりましたが、すごいビジネスマンだと思っていたので、恐る恐るそのことを言ったのです。東京はプロポーズするのに適当な場所がなく、「恋人の聖地」になるところが少ないけれども、先日アンケートを採ったら、森ビルの最上階で夕日の落ちるときにプロポーズをして成功したという回答と、これからしたいという回答が一番多かったのです。その話をしたら、それは光栄だと言ってくれて、日本中の「恋人の

聖地」の模範となるようにしたいということでした。何をしてくれるのかと思って、しばらくたってから六本木ヒルズに行くと、「恋人シート」が作っており、夕日の落ちる方向に向かって、5組ぐらいの男女がぴったりくっついて座れるようになっていたのです。

それから、1年に1回、プロポーズの言葉コンテストを全国的に開いています。そこに優勝した幾つかの例を貼って皆さん方に公表するなど、何とか若い人たちの後押しをしています。最初に「恋人の聖地」に名乗りを挙げたのは長野県の白馬村です。山頂のスキー場は、冬は人がたくさん来るけれども、夏は若い人が全然来ないということで、素晴らしい鐘を作りました。そして、素晴らしい花畑を作って、若い人たちに呼び掛けて、白馬の山頂で、2人で鐘を鳴らしたら恋が成就するというのをやったのです。

日本の人口は減りはじめていて、少子化が続けば大きな国家問題になってきます。ただ、私たちから見ていると、まず何よりも非婚化が問題です。婚姻が少ないから少子化になってくるわけですから、もっと結婚しやすい環境をつくらなければいけません。議員連盟ができたのは一歩前進だと思いますが、それは議員さんたちに考えていただかなければなりません。愛を育むような雰囲気、おもてなし、ロケーションなどに取り組んでいくのは民間のわれわれだと思うので、富山県もその一つとして、ぜひ皆さんに力を注いでいただければと思っています。

ふるさとウェディングコンクール



現在、ふるさとウェディングコンクールをやっています。最初の年は鎌倉ウェディング、昨年は島根県のソーシャルウェディングがグランプリを取りました。観光庁長官賞がグランプリ賞で、今年は総務省が総務大臣賞を出すと伝えてくれて、1等の総務大臣賞は50万円、観光庁長官賞が30万円、あとは全日本ブライダル協会の10万円×3組となっています。第1条件は市民参加型であることです。うちから出発するのでもよく、マンションだからみんなが見送ってくれなくても、式場にぱっと行ってしまわないで、神社にお参りし

たり、公園で皆さま方からお祝いを受けたりして、子どもたちにカップルの幸福な美しい姿を見せてあげることを第一義にして、それから披露宴会場に向かいます。

ですから、東京ではこのごろ神社での結婚式が増えてきました。ホテルや式場のチャペルや神前式場ではなく、式は神社です。そうすると、神社に参詣する人たちがみんな「おめでとう」と声を掛けてくれます。海外で結婚式を挙げたときと同じような感動が味わえるので、何とかして市民参加型の結婚式を、富山県は富山県なりに考えてほしいというのが私の切なる願いです。

海王丸のできた射水市としてはどうするべきか、こんなことをしてはどうかということは後のシンポジウムでお話しします。ぜひ今年は富山ウェディングを、あるいは海王丸ウェディングも素晴らしいと思います。最初は写真だけ送ればよくて、5月末締め切りで、全日本ブライダル協会では受け付けていますが、最終的にグランプリを決めるときは、20分ぐらいのDVDにしてもらいます。模擬結婚式ではなく本番の結婚式でなければいけません。ご本人が送っても、式場が送っても、プロデュース会社のようなところが送っても結構です。これまではプロデュース会社が多いです。会社とご本人が相談して、一つは市民参加型で、皆さんに祝ってもらって結婚式にする。もう一つは、地域の特産物を生かした引出物や料理、乗り物などです。例えば第2回は倉敷ウェディングが準グランプリを取りましたが、ずっと船で行く、なかなか情緒のある結婚式でした。できれば今年5月までに、海王丸ウェディングでもそういうものを出していただければと期待しています。

(司会) 桂由美さんでした。ありがとうございました。30代、40代の結婚しない人口が増えているという話は、私もとても耳が痛かったのですが、海王丸にもせっかく「恋人の聖地」があって、そこでウェディングも挙げられるということなので、ぜひ相手を早く見つけて、桂由美さんのウェディングドレスを着て、結婚式を挙げたいと思います。

また、周りにも結婚していない友達がたくさんいるので、今後広めていきたいと思いました。それでは、ただ今から15分間ほど休憩を頂きたいと思います。この後、パネルディスカッションの開始時刻は15時10分といたします。

第2部 パネルディスカッション

「新湊大橋を活用した賑わいあるベイエリアの創出」

コーディネーター 雨宮 洋司 氏（富山商船高等専門学校 名誉教授）

パネリスト 桂 由美 氏（ブライダルファッションデザイナー）

柴田 理恵 氏（女優／タレント）

中嶋 芳雄 氏（富山大学大学院理工学研究部教授）

山本 大志 氏（国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所長）

夏野 元志（射水市長）

（司会） それでは、第2部パネルディスカッションを開催させていただきます。テーマは「新湊大橋を活用した賑わいあるベイエリアの創出」です。本日は、各方面の5名の方々にパネリストをお願いしております。

それでは、パネリストの方々に順にご紹介させていただきます。まず、先ほど講演を頂いたブライダルファッションデザイナーの桂由美様です。お隣は、富山大学大学院理工学研究部教授、工学博士の中嶋芳雄様です。そして、さまざまなテレビ番組で、富山の素晴らしさ、射水の素晴らしさを全国に発信してくださっている、女優でタレントの柴田理恵様です。続いて、国土交通省北陸地方整備局、伏木富山港湾事務所長の山本大志様です。最後に、射水市長の夏野元志です。

次に、本日のパネルディスカッションのコーディネーターをご紹介します。富山商船高等専門学校名誉教授の雨宮洋司様です。それでは、ここからは雨宮先生に進行をお願いしたいと思います。



（雨宮） ただ今よりパネルディスカッションを始めます。私はコーディネーターとなっておりますが、専らタイムキーパーをするつもりです。今日、来ていただいた5人の方は

それぞれの部門の第一人者です。ですから、それぞれの方の発言を参考にしながら、聞いている方にいろいろなことを考えていただければ成功だろうと思います。

ただ、このシンポジウムの主催者、事務局は港関連のところ、国土交通省の富山新港（伏木富山港）の港づくりの責任者がいます。それから、夏野さんは市長ですから、まちづくりの責任を負っています。それから、富山大学の中嶋先生は、光、照明関係の専門家です。どなたもこの地域に奉仕されている方です。今日は桂さんと柴田さんの話を聞くためにここに来られたという方が多いかとは思いますが、司会者としては同じように振っていきますので、ご容赦ください。進め方としては、私から三つの質問を用意してあります。それに答えられる範囲で、桂さんから順に答えていただくつもりです。ただし、これは港関係のシンポジウムなので、国土交通省の山本さんと市長には、富山新港の現状について少し長めにお話しいただきます。

港のイメージと富山新港への期待

（雨宮） 最初の質問は、一般的に港、富山新港でも海岸線でもマリフロントでもいいですが、それに対するイメージを伺いたと思います。そして、それに加えて自己紹介、アピールすべき点が何かあればおっしゃってください。では、桂さんからお願いします。



（桂） 先ほど海王丸の中をすっかり案内していただいて拝見してきました。例えば結婚式を挙げる会場を選ぶときに、日本人、特に東京などの都会に住んでいる人は海の見えるところにしたがります。ハワイなどで結婚式を挙げる人も、海の見えないハワイの教会には全然魅力がないと言います。海は本当に宝です。また、私たちも横浜などでは大きな船をよく見っていますが、あれとは違って帆がたくさん張ってあるノスタルジックな、ロマンチックなイメージの帆船があるので、それは絶対に生かすべきだと思います。あれがシ

ンボルの的にあるところは、少なくとも「恋人の聖地」には私の知る限りありません。あの周辺は、これからどこかがイニシアチブを取って企画を立てて取り組まなければいけません。ばらばらにいろいろなものができる、一つのムードが出来上がらないのです。ですから、ある程度、このように地域を持っていくのだという絵をどなたかが描いて、それに沿ったようなお店の作り方をすべきです。ヨーロッパやアメリカのフィッシャーマンズワーフとはまたひと味違った情緒があります。特に恋人対策を考えたら、もう少しロマンチックになると思います。それができれば東京辺りからも来るのではないかという気がするのです。今度は鉄道が非常に便利になるそうで、東京から2時間になるということなので、西の方ではなく、東の方のお客さんを取り込むことも計算に入れながら、計画的に取り組んだ方がいいという感じがしました。



(中嶋) 先ほど雨宮先生からの紹介にもありましたが、私は照明を専門にやっています。桂先生もそうだと思いますが、照明光学や色彩工学など、目に関係することをやっています。あるいは人間の感性を扱う感性工学など、工学部から心理や物理の対象を数値化するというをやっています。

目に関係する研究を40年ほどやっています。世の中のものは8割以上が目から入ってくるので、そのような基礎研究に立脚して、まちづくりなどの応用サイドに展開しています。どのようにすると人が集まってくるか、観光客が来てくれるかというようなことをやっています。また、富山市からの要請で、2年半ほど前にLEDを使った富山城のライトアップも手掛けました。

1年後に新幹線も来ます。それから、5~6年前に東海北陸自動車道も開通して、東海や東京の方がどんどん来られます。富山城も、それまでは年がら年中、白っぽい照明で照らされていたのですが、冬は少し温かい、色温度の低い、炎のようなオレンジ色の照明で照らし、夏は涼やかな青っぽい白色で照らしたら、県民や市民、観光客の方が夕食後、そぞ

る歩くときに見てもらえるのではないかと考えています。照らす照明の色によって雰囲気がからっと変わります。新湊大橋もなかなかおしゃれな橋なので、上手にライトアップすると、一大観光スポットになるのではないかと考えています。

京都の辺り、北陸では富山、高岡、隣の金沢の辺りの古い神社や仏閣やお城をサンプルに160ほど集めて、それぞれどのような照明を使うと一番見栄えが良いか、観光客が来てくれるか、リピーターが来てくれるかを考えてやっています。対象は無数にあるので、それぞれカテゴリーに分けます。石造りで白い建物、清水寺のような木造の焦げ茶色、同じ木造でも神社のような赤色のもの、その三つのカテゴリーに含まれないその他というように四つに分けると、ほとんどの神社や仏閣、古い歴史的なものはどれかに当てはまるので、色温度というか、どういう色合いの照明を使うと一番引き立つかを考えて仕事をしています。

兵庫県の北の方は但馬の地で、城崎温泉という古い温泉があります。富山には宇奈月という古い温泉がありますが、北近畿の方では城崎温泉は有名な温泉です。志賀直哉の『城の崎にて』という小説で聞いたことがあるという人もいられるかもしれません。その市長が高校の後輩ということもあって、3年ほど前に、向こう100年を見据えた夜間景観を整備してほしいと言われて、いろいろ手掛けました。機会があれば、ぜひお越しください。

それから、3~4年ほど前に富山県庁から依頼があって、富山祭りに合わせて、県庁も参加したいということで、3日間だけライトアップしたいので手伝ってほしいと言われてました。せっかく力を入れてやったのですが、仮設なのですぐに取り払うことになってしまいました。また、富山市から富山城のライトアップの委託を受け、天守閣の上のところをLEDで照らしました。日本で城郭をLEDで照らしたのは初めてで、3年ほど前に手掛けました。

それから、射水市との関わりについては、海王丸を新湊へ誘致するころ、旧東京商船大学（現東京海洋大学）にいた橋本進先生から、今度そちらに海王丸が行くという連絡を受けました。あるいは、そのお弟子さんで、旧運輸省の航海訓練所の教官で甲斐先生という方がいて、富山大学の私どもの研究室によくおみえでした。そのような関わりもあって、海王丸パークの辺りに行くときには懐かしく、いつもそのことを思い出します。

また、これも4~5年前ですが、射水市の方から、今度、新湊大橋が開通したら観光の一大スポットにしたいので、ライトアップを手伝ってほしいという話を頂きました。当時、金沢美大、その後、金沢学院大学に移られた山岸先生と一緒に、ライトアップに関わらせていただいた思い出があります。新湊大橋は日本海側随一の斜張橋ということで、この後、専門のお二方の説明があると思いますが、ステージは整っています。特に、大橋は両袖のスロープが富士山のように緩やかにずっとあって、エレガントなフォルムをしているので、今もおしゃれですが、昼景のみならず夜景も、色合いをワンポイント入れると、さらによいのではないかとイメージを持っています。

（雨宮） ありがとうございます。帆船海王丸の懐かしい人の名前も出していただいて、非常にうれしかったです。次に柴田さん、よろしくお願いします。



(柴田) 私は仕事柄、他県も含めていろいろなところにロケに行きますが、殊にこの何年かは、テレビ番組等で、富山県内のいろいろなところに行かせていただいています。私は八尾町出身ですが、高校生までしかなくて、子どものころのことなので県内もそんなによく知らなかったのですが、ここ最近になっていろいろなところに行きました。新湊というところも、子どものころはあまりよく覚えていないので、いいなと思ったのは最近です。

新湊大橋が開通する前々日に、工事関係者の方以外では、私が最初に、しかも歩いて通らせてもらいました。まだ車が通ってなくて、これからは車しか通れないから絶対に歩けないと言われたところに下りて歩いてみたのです。本当にきれいでした。それこそ、この何年か富山県内を回って、富山県には、東京でよく流される立山アルペンルートのごいところ、魚津の屋気楼のごいところなど、いいところがたくさんありますが、この新湊大橋からの眺めと云ったら、本当に素晴らしかったです。ちょうど良い天気の日で、能登半島が全部見えて、視線をずらすと立山がざっと見えて、空の青と海の青の境目が分からないぐらいになっていました。その間に白い立山連峰がぼっかりと浮かぶのです。この景色を持つ市民はすごいな、この景色を毎日見ている人たちは本当にぜいたくだなとしみじみ思いました。これこそたくさんの人に見てもらいたい、富山県の一大名物にならなければならないと思いました。それほど素晴らしい景色のところ。海王丸パークにしてもそうで、個人的には、買い物に行くので魚を売っている「きときと館」が一番好きですが、その一帯を含めて、本当に素晴らしいところだという認識を新たにしました。

桂由美先生の講演を聴いていて思ったのは、湘南などのように、「ちょっとデートに行こう」と言ったら、「新湊へ行こう」「海王丸パークに行こう」という人も今たくさんいると思うのです。桂由美先生の「恋人の聖地」は、全国にたくさんあります。桂由美先生が作ったというのを今初めて知ったのですが、本当にみんな行くのです。若い人はとにかく行くのです。

この間、デート番組のようなものをテレビでやりました。まだオンエアしていないと思いますが、結婚していてもしていなくても、夫婦を取り替えているいろいろな人でカップルを組んでデートに行くという番組だったのですが、そのときも一応行ってみるのが「恋人の聖地」なのです。絶対に約束してはいけない同士なのに、約束をして鍵を掛けてしまうのです。それぐらい何となく心うきうきするというか、若い人もうきうきするけれども、結婚して20年たっていても、50年ぐらいたっていても、行って誓いを書いて鍵を掛けてみるという楽しいところは全部の年代に通じると思います。これから若い人もそうですが、あまりばあちゃんたちの銀座になっても困りますが、長生きしますようにと言ってじいちゃんとはあちゃんを鍵を掛けるような聖地でもいいので、そういうふうになっていけばいいなと思いました。

(雨宮) どうもありがとうございます。開通前に通る許可を与え、新湊大橋を造った責任者の山本さんにバトンタッチしてもらいます。富山の港の状況も加えてください。



(山本) 柴田さんの話の後で非常に話しづらいのですが、今ご紹介いただいたように、私の事務所で新湊大橋を整備しております。今、柴田さんから橋を歩いて渡ることができないという話がありましたが、年に何回かマラソン大会やトライアスロン大会をやっているので、体力に自信のある方は、ぜひご参加いただければと思います。

これから少し堅苦しい話をしますが、少子化対策などいろいろある中で、地域に安定した雇用、働き口を確保することがわれわれとしての使命だと思っているので、ご容赦いただいて、港の話をさせてください。

港を造る前には放生津潟があり、砂州が延びていて内側が湖になっている潟湖を開削して港にしました。現在の富山新港には橋があり、橋を東側に下りたすぐそばに北陸電力の新港火力発電所があります。これは北陸3県最大の火力発電所となっており、日々皆さま

に電力を供給しています。それから、西の陸側にある公共ターミナルは北陸でも最大の岸壁を備えています。ここで主に黒っぽいコークスや茶色っぽいチップなどを揚げていて、それらを利用しています。その対岸のコンテナ・RORO 船ターミナルの付近には民家などもあります。RORO というのは自動車を運ぶ船ですが、貨物としてはチップよりもクリーンな貨物ということで、民家に配慮して、海側の岸壁では割ときれいなものを扱っています。

さらに、東の海沿いには、海老江海浜公園、海竜マリンパーク、海竜スポーツランド、元気の森公園、海王丸パークなどが並んでいます。また、港の中にはいろいろな企業が立地しています。少し古いデータでは、開削して、港として工業団地も含めて整備して、90社 7000人の雇用が生まれたと聞いています。

港湾の機能にはどのようなものがあるかということをご説明します。経済発展は港が鍵で、中国の発展状況などを見ると、上海や香港周辺など、やはり臨海部なのです。作った製品を世界中に貿易するのにどうしても港が必要だからです。日本も過去を振り返れば、太平洋ベルト地帯がアメリカへの輸出で栄えました。

次に港の物流の特徴です。今、富山新港には5万トン級の大きな船が入ってきますが、これを10トントラックで運ぶとなると5000台が必要になります。これが物理的に不可能だということは直感的に分かるとは思いますが、それによって多大なコストの縮減を図っています。大きな港があるということは、結果として、その地域の企業の誘致なりに非常に大きな効果があります。そのような港があると、結果的に物流コストが下がりますが、それに加えて商圈が広がります。安いコストで物を出せることで、いろいろなところに安く品物を持っていけます。コンテナ航路などを新しく定期的につなげるとなると、それだけ輸出する先も増えてくるということです。

企業立地・産業活動の場になっているということは先ほどご説明したとおりです。ストローク効果というのは、高速道路や新幹線ができて、遠くの大きな町のデパートなどに買いに行くことで地元が疲弊してしまうという状況です。これに対する取り組みとして、港は企業を連れてくる側面があるので、非常に効果があるということです。

港の活性化の循環性については、企業が増えて地元の港が活性化されれば、さらに航路が増える、大きな船が来るといようなことで、どんどん便利になっていきます。それがまた便利になれば、さらに企業が来るといような循環性があります。われわれはそこを目指して仕事をしているわけですが、これが反対になると大変なことになってしまいます。負の循環が起きたら企業が逃げていく、新たな投資がされなくてまた逃げていくということになってしまうので、われわれはそうならないように努力しています。

富山は今後の対岸貿易において非常にいい場所を占めており、現在、対岸諸国にいろいろな航路があります。地元の港、地元の企業、皆さま、行政が一丸となって育てていくという意識が大事だろうと考えています。

(雨宮) どうもありがとうございました。海王丸パークだけが港の持つ機能ではないということです。華やかなものの土台に物流機能を据えずとやってきました。しかし、富山県の場合は、90年代に入ってから海王丸パークを造り、帆船海王丸を呼びという新たな展開をしている先行くところだと思っているので、こういうことはぜひ知っておいていただきたいということです。それでは、賑わい創りやまちづくりというところで、射水

市の最高責任者の夏野市長によろしく申し上げます。



(夏野) 私からは、あえて堅い話ですが、射水市と富山新港ということについて、再確認の意味であらためてお話しします。

射水市は富山県の中央に位置しています。北部には国際拠点港湾の伏木富山港新湊地区（富山新港）を擁し、背後には広大な射水平野、南部には緑豊かな射水丘陵があり、さまざまな魅力と可能性を秘めた港湾都市です。富山新港は約 1.8km²の放生津潟を利用した堀込港湾です。富山高岡新産業都市の新しい拠点として、昭和 36 年に建設に着手されました。昭和 42 年に道路と鉄道のあった港口部を開削して、昭和 43 年 4 月に開港しました。昭和 61 年には富山新港と隣接している伏木港、富山港の三つの港をひとくくりにして、伏木富山港として、国から特定重要港湾に指定されました。

同時に、造成された富山新港臨海工業用地には、現在 100 社が操業する県内最大の工業地帯が形成されています。その後、コンテナを扱う国際物流ターミナルや旅客船バス、初代帆船海王丸を係留展示する海王丸パークなども整備され、現在では、物流・産業・交流の拠点として、伏木富山港の中核的役割を担っています。中でも物流面については、興隆する対岸諸国であるロシアや韓国、中国、東南アジアなどへ 6 航路、月 43 便の国際定期航路が就航しており、取り扱っている貨物量の伸びも近年目覚ましいものがあります。

一昨年、国土交通省から日本海側の拠点港の一つとして伏木富山港が選定を受けました。日本海側の港を牽引する役割とともに、災害が少ないという利点を生かして、太平洋側港湾の代替機能を担うことも期待されています。今後は、平成 26 年度末の北陸新幹線開通を見据えて、企業誘致とともに首都圏の物流を取り込むためにも、岸壁の延伸やコンテナヤードの拡充、災害に強い物流ネットワーク構築を目指していくこととなります。平成 25 年は、開港 45 周年という節目の年でもあり、今後、ますますの発展が期待されています。

次に、新湊大橋です。ご存じのとおり、一昨年の 9 月 23 日に開通しました。新湊大橋は

10年の歳月をかけて建設されたもので、45年ぶりに港の東西がつながりました。総延長は3.6km、海上に架かる主橋梁部は長さ600m、橋を支える東西の主塔の高さは127m、主塔から斜めに張ったケーブルで支える斜張橋としては、日本海側最大級の規模を誇ります。海拔47mに2車線の道路があり、その下に歩行者用の道路「あいの風プロムナード」があるという2層構造になっていることも大きな特徴です。

秋晴れの下、開通イベントが開催されたときには、地元の方をはじめ多くの方にお越しいただきました。ざっくりと10万人くらい来られたのではないかと試算しておりますが、多くの方々に大橋の完成を祝っていただき、この日は祝賀ムードに湧きました。開通後の周辺施設には、連日、大変多くの方に来ていただいて賑わっています。海王丸パークでは、開園以来、初めて年間100万人に届く観光客に来ていただきました。

車道部の開通と歩道部「あいの風プロムナード」の開通は時期がずれており、昨年6月16日に歩行者専用道「あいの風プロムナード」の供用が開始されました。延長が480m、海拔47mにある空中庭園歩廊ということで、高いところで空中散歩をしながら、周辺を見下ろしながら歩ける歩道になっています。夜には橋のライトアップと海王丸のライトアップが合わさり、水面に光が映る幻想的な風景も非常にロマンチックな雰囲気を醸し出しています。

また、港の周辺地区にもさまざまな魅力があります。まず、西側の新湊の市街地には東西に内川が流れております。その情景は「日本のベニス」とも例えられています。内川には幾つもの漁船が停泊しており、銅板の壁や懐かしい看板など、港町風情の残るノスタルジックな風景が続いています。生活する人々の息使いが感じられるとともに、のんびりと心もゆっくり散策することができるエリアでもあります。一方、東側の堀岡地区には、温水プールや海浜公園、ヨットハーバーといったマリンレジャーを楽しむ施設、さらにはパークゴルフ場もあるということで、老若男女問わず賑わいが創出されているエリアとなっております。

最後になりますが、何といたっても「恋人の聖地」に選定いただきました。かねてこのエリアは非常に景色も良く、魅力が高いのではないかと自負しておりましたが、「恋人の聖地」に選定していただき、先ほどから桂さんに大変高い評価を頂いており、自信を深めています。また、「恋人の聖地」に選定いただいたいろいろなご縁といいますか、例えば海王丸の進水式は84年前のバレンタインデーに行われました。つまり、海王丸の誕生日が2月14日であるということであり、新湊大橋の歩行者用通路の愛称が「あいの風プロムナード」です。「あいの風」というのは、時折吹く実際の風の名称ですが、「恋人の聖地」に選定されると、愛を語る「『愛』の風プロムナード」というような感じがして、そのようなご縁も感じます。

このようなポテンシャル、多くの素材を最大限に生かしながら、今後も、港周辺、射水ベイエリアのさらなる発展と活性化に向けて、いろいろな取り組みをしていきたいと考えています。

(雨宮) どうもありがとうございました。富山新港を中心としたベイエリアの全体像をお二方からお話しいただきました。

海辺でのにぎわい創出に向けて

(雨宮) 第2の質問に移ります。このような海辺での賑わい、活性化は、最初は夢でもいいと思いますが、それをどのようにパネリストの方々がお持ちかをお聞きしたいと思います。桂さんからお願いいたします。



(桂) 私ども東京の人間から見ると、富山県と聞いたときにぱっと思い浮かぶのはやはりチューリップなのです。チューリップと帆船も、全く関係ないようではいながら、とてもよく合うと思います。ですから、よその県でやっていないことをやるということが、観光対策としても恋人対策としても必要だと思います。ですから、もう少しチューリップをここへ持ちこんだらどうでしょう。例えばチューリップの置物、あるいはチューリップの飲み物はないかもしれませんが、アイスクリームを作るなど、皆さんでぱっと思い浮かんだときに、帆船だけでなく、帆船ともう少しロマンチックなものとの組み合わせを考えられたらどうかというアイデアを、先生方のお話を伺いながら思いつきました。

それからもう一つ、これはお願いですが、恋愛というのは決して10代、20代のものではないと思います。恋というのは30代になっても40代になってもあると思うので、ぜひ恋人が皆さま方のご主人であり、奥さんであってくれればいいわけです。夫婦生活は長く続くと、恋ではなくなってくることが多いですが、恋心を持っていただければ、多分、皆さまは少なくとも十は若くなるし、下手をしたら二十ぐらい若くなると思います。富山県が全体に若々しくなれば、それも一つの富山の売れる、注目を浴びる要因になります。富山というと、全体的に少し地味な感じがしますが、もう少し出ていいと思います。特に帆船があることは富山の一つの財産だと思うので、ぜひこれとチューリップを生かして、「恋人の聖地」でプロポーズをする、誓いを立てるということも、違う人とはではなく、2回目、3回目、ご自分のご主人や奥様と10年ごとに海王丸の「愛鍵の部屋」を訪れて、2

人でハグをしていただくというようなことをしたら、皆さんはもう少し若返るような気がします。そういう意味で海王丸が役に立てば、2倍、3倍の経済効果もあると思いますので、よろしくをお願いします。

(雨宮) どうもありがとうございました。良いヒントを頂きました。

(桂) もう一つ、「ブライダルコアあなた」さんというのが桂由美のやっている衣装屋さんなのですが、一言言っておいてくれと言われて忘れていました。欧米の習慣としては、結婚記念日のときにはウェディングドレスを着てもいいので、銀婚式でも来ていただきたい。30年はパール婚式といって、奥さんがドレスを着て、ご主人は奥さんにパールのプレゼントをしなければいけないのですが、それも30年になったらパールを買わなければいけないと思って、一生懸命お金をためてくれるかもしれません。そのときは、あなたさんに駆け込んでいただくと、ウェディングドレスを着せて、30代になっても40代になっても、素晴らしい花嫁にする自信があると思いますので、ぜひそれを着て、海王丸で結婚記念日を祝うアニバーサリーウェディングの習慣を付けていただければありがたいと思います。

(雨宮) どうもありがとうございました。三つの質問と言いましたが、二つにしましょう。こういう地域に、こういう夢、そして賑わい、活性化ということを考えたら、取りあえずこういうことはどうかという二つのことを一緒にやってしまいましょう。しゃべりたいことをしゃべってください。中嶋さんお願いします。



(中嶋) 今、桂由美先生が、帆船のように、積極的に人生を生きなさいとおっしゃって、いい言葉だなと思いました。僕も居間に、海王丸パークで買ったすごく大きなカレンダー

があります。置の半分ぐらいの大きさがあって、カティーサーク(帆船)を張っています。海原を進んでいる帆船ですが、人生もこのように波を突っ切っていかなければいけないと思いつつ、いつも見えています。

さて、5年前に東海北陸道ができて、1年後に新幹線が開通しますので、ますます東京をはじめ全国からビジネスマンや観光客が来るので、海王丸パークと新湊大橋を十分に活用しない手はないと思います。1日の半分は夜間なので、昼景も大切ですが、夜景もすごく大切です。世界の有名な観光地はみんな夜景に力を入れています。日本も有名な観光地は夜景に力を入れているので、富山もぜひ海王丸パークの辺りの夜景が北陸随一のものになり、独創的でオリジナリティのある観光スポットになればと思っています。また、ライトアップや夜間照明は、水面に映ると倍増します。海や川などは、まさにライトアップに持ってこいのところなので、夜間の光環境の整備がますます進んでいくといいなと思っています。

それから、新湊大橋が平成24年度の照明学会で照明普及賞を授与されたときの写真が、立派な冊子の31番目にあります。エレベーターで上ったプロムナードのところにも受賞のポスターが張ってあります。箱物を建てるのは結構お金が掛かりますが、光や照明はそれほどお金を掛けずに効果的な空間をつくることができます。上手なライトアップや光空間は、人に大きな感動を与え、訪れた観光客にまた来ようと思わせ、リピーターを生み出す効果もあります。

また、富山県では水辺と光の空間創出検討懇談会があり、私もそのメンバーの1人になっています。今年度は、県内の有名な観光スポットの中から2件を選びました。一つは富山駅北口の環水公園で、もう一つが海王丸パークです。この2点により集中的に予算を付けて、新幹線が来た場合でも、観光客にぜひここまで足を運んでもらうところにしてということで、予算も付いていますので、この辺りの夜景もますます素晴らしいものになるのではないかと考えています。

特に海王丸パークの辺りは、駐車場から海王丸までの足元等を整備して、人の流れを良くしよう、あるいは桂由美先生の「恋人の聖地」の蛇輪の中にハートのシンボルがありますが、あの辺りはまだ照度が少し低いので、もう少し明るくして、人が夜間でも回遊できるようにしよう。あるいは、海王丸の船体の側面を青色の投光器で照らして、船の動きを醸し出すといった計画があり、ますます夜間の光環境が整備されるのだろうと思っています。

それから、昨日、内川の辺りも歩きましたが、大阪にある道頓堀の戎橋(えびすばし)の両サイドの歩道と少し似ているので、あの辺りは参考になるところがいろいろあるのではないかと思います。歩道もある程度、整備されていますが、回遊できるようにしたいと思います。照明も白っぽくなっているので、少し色温度を抑えた照明を使うと、よりロマンチックになると思います。そのうち喫茶店ももっと増えたり、土産物屋も増えて、若い人をはじめとしているいろいろな人が回遊できるポテンシャルを持っているのではないかという印象を持ちました。

それから、今日はベイエリアの話でしたが、こちらのJR小杉駅の近くの川もイルミネーションで照明されているので、ベイエリアを中心に小杉の辺りも含めて、射水市の夜間景観を整備する調査委員会のようなものをつくり、どういうところを応援すると、よりすてきな夜間景観ができるかというデータを基に、射水市を北陸随一の夜間景観都市にする。

そのポテンシャルも十分持っていると思いますので、ここに来られている方もそういうことを頭の片隅に入れて、1日の半分の夜間の景観をますますすてきにすると、より豊かな土地になるのではないかと考えています。

(雨宮) ありがとうございます。では、柴田さん。今、中嶋さんが内川のことをおっしゃいました。立川志の輔さんの育った雰囲気がある場所です。DOUZOの喫茶店でコーヒーを飲まれたのではないのでしょうか。あの辺りのことも触れられるならば、この地域の夢と、もう一步こういうことはどうかというものがあれば、教えてください。



(柴田) 私はまず新湊大橋に関して言わせていただけたら、新湊大橋の車でしか通ってはいけない、マラソンのときしか開かないところを歩いて渡った自分としては、「あいの風プロムナード」は確かに雨風がしのげるし、通勤・通学する方を守る素晴らしいものだと思いますが、例えば土日だけなど、通勤時間ではない季節のいいときに上を歩いて通りたいですね。土日などはたまに散歩がてらに、てくてくと歩けるようにしてほしいと思います。あの景色を見た人間はどうしてもそう思いますが、そこは法律を何とかしてもらわなければいけないので、それを何とかお願いしたいと思います。

もう一つは、先ほどから中嶋先生がおっしゃっている海王丸パークの夜景も素晴らしい、新湊大橋の夜景も素晴らしい。夜景は何をしているときが一番素晴らしいかというと、飲んだり食ったりしているときです。夜景を見て、恋人たちがそこでワインなどを飲んで食事をしたりすると、そのカップルは絶対にうまくいくのです。そのために「恋人たちの聖地」もあるわけです。ですから、あの夜景を見ながらお話しできるカフェ、夜、もちろん刺身定食もおいしいですが、新湊のおいしい魚を使ったイタリアンレストランなどがあると思います。若い人だけでなく、おばちゃんたちもそういうものが大好きで、おばちゃんたちが動けば世の中の金は動くので、とにかくおばちゃんたちが動くようなものをつく

ってほしい。

もう一つは内川です。私も行かせていただいて、すてきな橋がたくさんあります。こんなにたくさんあるのか、十幾つもあるのかと、今パンフレットを見て思ったのですが、ステンドグラスになっていたり、地元の彫刻家の方が一つ一つ丁寧に造っている橋をもっともっと散策しながら、一の橋、二の橋と順々に行く。橋を巡るといいことが起こる、全部の橋を渡ると、お互いの心に橋が架かるというようないいかげんな伝説でも作って、これでうまくいったカップルがいるといいかげんなことを言って宣伝をしていくのがいいと思います。そのためには、橋を見てちょっとお茶を飲むカフェなどがあると、女の子たちは本当に喜ぶ。男は女の子に引っ張られないと絶対に来ませんから、やはり女の人です。おばちゃんを引っ張れば、おっさんも付いてくる。

ですから、女性が喜ぶカフェなどがたくさんあるといいと思います。もちろん、お店を出したりするときのお金などは大変かもしれませんが、もし空き家のようになっていたりするところがあれば、今、例えばカップケーキを焼いて、コーヒーや紅茶を出す小さなお店を出したいという人、そういうセンスを持っている若い女性はたくさんいます。桂先生に言わせれば、そんなことをするよりも結婚しろということかもしれませんが、そうやって結婚する人もいるので、小さいお店を開きたい女の方はたくさんいます。

ですから、そういう人たちに場を与えてあげるといえるか、軒先だけでも安く貸してあげられるようにしてほしい。これは市長にお願いしなければいけないことかもしれませんが、私がお茶を飲んだ蔵のある喫茶店はお金持ちの家だったので、そういうこともできるかもしれませんが、お金のない若い人たちにチャンスを与えるということでは、例えばあの中に何軒か空きスペースがあるのであれば、そこで少し小物を売って、その横でちょっとお茶を飲めるようなところの家賃を安くしてもらえると、若い人たちも絶対にアンテナが立っている、若い人を誘致するようにしていくと、そういうセンスのいいところには自然と女の子やおばちゃんが集まるので、絶対に男の人も付いてくると思います。

(雨宮) どうもありがとうございました。時間がなくなってしまったので、夏野さんは省略します。では、山本さん 30 秒か 1 分ぐらい、言いたいことをお願いします。



(山本) 晴れたい日は開放してくれという話は、今、県が所掌しており、われわれは所掌しておりませんので、そういう話があるということはお伝えします。私も大賛成です。

それから、ベイエリアに関しては、先ほどスライドでもご紹介したとおり、施設としては非常にいいものができているので、これからはそれをどう工夫して使っていったらいいか、その間の連携を取っていくのが大事になってくると思います。なぜあそこに海王丸がいるかといえば、今日、コーディネーターをされている雨宮先生らのご努力でそこに来たというような歴史があり、商船高専の卒業生もあれで研修を受けてきたという歴史があります。それから、海王丸の姉妹船である日本丸は横浜にあります。横浜か新湊にしかない貴重なものが地元にあるということをおさまにももう少し認識していただきたいということと、海王丸を利活用する上で、例えば会議室を開放する、中でお茶が飲めるようにする、宿泊施設に泊まれるようにする、高専が使った古い資料や航海のシミュレーターなどを使えるようにするなど、いろいろなアイデアがあると思います。最終的には地域の総合力だと思うので、皆さんで力を合わせてやっていただければ、われわれとしても全面的に協力していきたいと考えています。

(雨宮) ご協力ありがとうございました。夏野さん、申し訳ありませんが、時間が来たので、これで終わりにしたいと思います。今日、パネリストの皆さんから出たことを、皆さん個々人がお考えになって、今後に生かしていただければ幸いです。本日はどうもありがとうございました。

(司会) ありがとうございました。皆さん、いま一度大きな拍手をお願いいたします。パネリストの皆さま、コーディネーターの雨宮先生、ありがとうございました。

今日は帰ったらぜひ知り合いや県外の方に射水ベイエリアの良さをPRしていただきたいと思います。そして、皆さんで射水ベイエリアをもっともっと盛り上げていきましょう。

これからもますますのご支援を賜りますことを、心からお願い申し上げます。

参加者の皆さまから講師の方々にご質問等があるかと思いますが、時間の都合上、本日は受け付けることができませんので、お手持ちにアンケート用紙をご利用し、そちらで質問をしていただければと思います。質問への回答をご希望の場合は、質問の最後にご住所とお名前を記入していただければ、後日こちらから回答をお送りいたします。この後、アンケートを回収いたしますので、ご協力をお願いいたします。

本日は長時間お付き合いくださいまして、誠にありがとうございました。これをもちまして、新湊大橋開通1周年・あいの風プロムナード開通記念「富山新港の未来を考えるシンポジウム」を終了させていただきます。

